

国際・公共政策大学院 学位授与の状況の分析・解説

国際・公共政策大学院では、公共法政、グローバル・ガバナンス、公共経済、アジア公共政策の4つのプログラムそれぞれのディプロマ・ポリシーの教育目標に基づき、修得する能力・資質等をプログラムごとに具体的に定め、教育課程を編成している。学修成果の評価については、学術的カリキュラムと実践的カリキュラムそれぞれの適切な方法により、シラバスで示された到達目標への到達度を判定し、所定の単位修得と修了要件の充足をもって学位を授与することとしている。

また、入学者へ求める資質として、優れた問題意識、課題設定能力、調査能力、緻密な分析力、政策構想力、コミュニケーション能力、行動力を挙げ、そのうえで多様な背景を持つ学生を受け入れるために、一般選抜や外国人留学生に加えて実務経験を有する国内外の社会人を受け入れている。

直近の修業年限内修了率は約92%となっており、上述のとおり企業、官公庁、外国政府等から派遣され、修了後に復職する社会人学生が約42%を占めているほか、JICA、IMF、ADBをはじめとした奨学金受給者も多く、またその他の学生も一部の大学院進学者等を除きほぼ全員が就職していることが修業年限内修了率の高さにつながっていると分析できる。なお修業年限内に修了しないケースは留学や就職活動継続などが主な理由となっており、学業不振によるものではない。